

いだてん金栗四三史からみた オリンピックと箱根駅伝展

昨年の NHK 大河ドラマ「いだてん」でも注目された、伝説のランナー金栗四三（1891-1983）にスポットを当てた展示がスポーツ研究所主催で1月から2月にかけて生田校舎9号館1階で開催された。

熊本県玉名郡で生まれた金栗は、東京高等師範学校入学後にマラソン競技を始め、3度のマラソン世界記録、日本人初にして3度のオリンピック出場など輝かしい実績を残す。さらには日本マラソン界の発展のため、箱根駅伝の開催に尽力するなどした。

金栗の出生地である玉名市には専修大学玉名高校があり、また審判長を務めた第20回箱根駅伝大会では専修大学が優勝を果たすなど、金栗と専大の縁は深い。

展示では金栗四三直筆の書や陸上競技部の箱根駅伝関連の品のほか、図書館所蔵の関連書籍などが並んだ。



↑会場入り口

↓陸上競技部ユニフォーム



↑日本初参加の第5回オリンピック（1912年、ストックホルム）の開催式。「NIPPON」のプラカードを持つ金栗。金栗はマラソンに出場したが日射病のため近くの農家で介抱され、そのまま帰国。その後、1967年のストックホルム五輪開催55周年記念の式典で、54年と8ヶ月6日5時間32分20秒3のタイムでゴールしている。